


砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

 鳥取医療センター

発行責任者：下田 光太郎

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 新年のあいさつ
2. 27年度病院フェスタについて
3. ロボットスーツHALのデモンストレーションについて
4. 10周年記念式典について
5. 9病棟クリスマス会特別メニュー
6. 病棟音楽会

新年のあいさつ

「鳥取医療センター新年の夢」

HA 鳥取医療センターロボット導入プロジェクトについて

新年あけましておめでとうございます。

平成28年となり皆様におかれましては、気持ちも新たに新年をお迎えのことと存じます。昨年は当院にとっては10周年という記念すべき年でした。鳥取医療センターとなって早くも10年、地域において当院が十分な役割を果たしているとはまだまだ言い切れませんが、今後も政策医療や地域医療をさらに充実させ、少しでも皆様のお役に立てるよう職員一同努力していきたくと思っています。7月には多くの関係者の皆様にお集り頂き10周年記念式典が開催され、当院の今後の方向性についてご示唆頂きました。一方昨年4月より国立病院機構は非国家公務員型の独立行政法人となりました。地域医療構想が立ち上がり病院を取り巻く環境が厳しくなるなか、国立病院機構は来るべき時代に備えて、病院経営や医療の提供体制を見直し、地域医療に如何に貢献するかを模索しているところです。

さて当院では昨年より鳥取医療センターロボット導入プロジェクトが立ち上がり、当医療センターにとってロボット元年となった年でもありました。ロボットといえば国を挙げてのロボット導入の研究開発が進行しています。駆動系産業用ロボットは言うに及ばず、人工知能を備えた人形ロボットの研究開発が進んでいます。少子高齢化社会を迎え、医療介護現場での深刻な人手不足が問題となり、産業界の自動化FA（ファクトリーオートメーション）の時代から、HA(hospital automation)の時代を迎えようとしています。これからのロボットは様々な環境情報を取り込みながら、自律的に学習し、様々の状況に対応できるロボットを目指しています。特に多様なセンサー、画像・音声・言語、重力等々の認知システムからの情報を一瞬に解析して、さらにクラウドに蓄積された膨大な情報（記憶）を参照しながら即座に対応する、人工知能AIを備えたロボットが出現しつつあります。遠い将来にはSF映画の様にAIが人を支配する時代が来るかもしれません。実際これらスマートマシンと言われるものがあふれる時代がすぐそこまで来ています。鳥取医療センターでは取りあえずあらゆる職種の人材不足の中、医療、看護、リハビリ、介護、等々のあらゆる医療現場において、ロボット導入の試みを行なってみたいと思っています。

本年もよろしくお願いいたします。



鳥取医療センター 院長
下田 光太郎



● 27年度病院フェスタについて ●

副看護部長 松 永 清 志



看板「ようこそ
鳥取医療センターへ」



フェスタタイトル

今年の病院フェスタは、鳥取医療センター開院10周年に相応しい病院フェスタとなるよう、全職種・全職員が協力して盛り上げるべく、病院幹部会の指示により23名による企画委員会を立ち上げ、各職場長の協力のもと、全職員で取り組みました。

当院が担うべき医療は政策医療と地域医療であり、特に今回は地域に目を向け“地域に根差した病院を目指し、地域住民や地域施設及び患者・家族を対象として、当院のPR活動を行う”ことを目的に、表題のテーマを掲げ企画を検討していきました。また、病院フェスタの日程を9月26日(土)に設定し、地域住民の方々も参加しやすいよう配慮しました。



トリピー



因幡びよん兎くん

企画検討の段階では、鳥取県出身の著名人として、政治家やタレント、人気力士や漫画作家等の講演など、自由な発想で80企画案が提出され、検討に検討を重ね、『講演・ステージ』『健康相談』『展示』『屋台』『体験』『子供向けイベント』と大きく6イベントに整理し、18企画に絞り込み、イベント内容を検討し企画書の段階まで進めていきました。



ゆるキャラ集合



そして、病院フェスタ企画を実行するに当たり、実行委員会を立ち上げ総勢29名の実行委員で具体的に各方面への交渉を行うとともに、準備を進めていきました。最終的には各ボランティアの方々の協力のもと、手

作り感満載の病院フェスタとすることができました。

「パン、パン、パン！」合図の花火の後、ファンファーレとともに病院フェスタ開始です。地域の方々の来訪は、160名前後の参加をいただきました。下田院長による『認知症について』の講演では、高齢の家族を抱える地域の方が、熱心にメモを取る姿が印象に残りました。ステージではボランティア『鳥取音楽隊』の演奏



下田院長開会宣言



講演「認知症について」

にアンコールの拍手が起きるなど感動のステージでした。子供向けイベントとしての『出張かっこ館』などでは、子供たちの笑顔と歓声で和やかなひと時を過ごすことができました。大人向けイベントとしての『健康チェック』や『健康相談』、『AED体験』などへの参加も興味を持っていただきました。また、屋台としてセルフうどんや綿菓子、射的などお祭りに欠かせないものには、多くの方が長蛇の列を作り、完売となりました。やはり食欲に勝る笑顔はありません。



つまみたくなる「手芸作品」



健康相談&チェックスタッフ一同

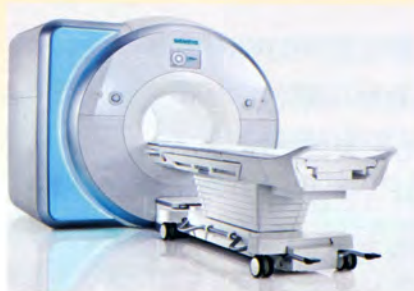


大人気「セルフうどん」

このように、大盛況の元、閉幕となりました。またボランティアの方々の協力と参加も多数あり、入院患者さんの笑顔もたくさん見ることができました。また病院フェスタを運営する職員は、全部門から80名以上参加し、地域の方や入院患者さんとの和気あいあいとした触れ合いに充実感を味わうことができ、良い祭りとなりました。ありがとうございました。

● 医療機器紹介：MRI導入について ●

診療放射線技師長 富田正二



MRI装置 更新

昨年9月28日にMRI装置が更新されSIMENS MAGNETOM Skyraが稼働を始めました。臨床用のMRIとしては最も静磁場が高い3T(テスラ)の装置です。

最新アプリケーションを多数搭載しており、今までよりさらに進んだ検査を可能にします。

①検査環境の改善

ポア径(装置のトンネル部の開口幅)が70cmに広がり、背部痛がある患者さまでは膝を曲げたり、横を向いて検査を受けるなど検査体位に自由度が増します。今まで検査を受けることができなかった方も可能となりました。そして閉所が苦手な方でも検査を受けて頂けます。



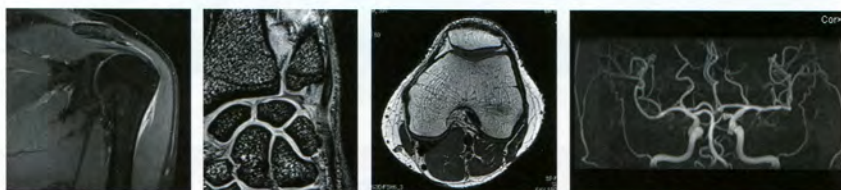
また、最新の静音撮像機能を搭載しており、多くの検査において、高画質を担保しながら、検査時の騒音を70%以上軽減することが可能になりました。

さらに、寝台が装置から離脱できるため患者さまの移動もスムーズに行えるようになりました。

②3テスラMRIによる高画質検査

3テスラの信号強度は1.5テスラの2倍高く、高精細なMRアンギオグラフィー(血管撮影)や、分解能を上げた病変描出能の高い画像の取得が可能です。

また、高い信号強度を利用した高速撮像も可能なため、関節領域では薄スライスの画像を短時間に取得可能です。



肩関節

手関節

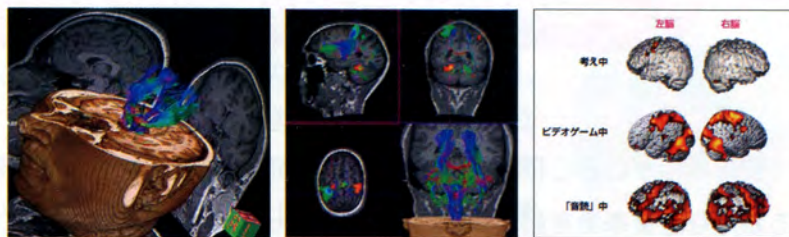
膝関節

頭部血管

③高付加価値検査が可能

3テスラの特性を生かした、DTI(神経描出)やスペクトロスコピー(代謝物質)、ファンクショナルMRI(脳機能)検査などの高度な検査も可能です。

認知症の進行メカニズムの解明や小児脳の発達障害の理由の解明や、治療効果の診断などにも活用するなど最先端の検査にも取り組んでいます。



今までよりもさらに高いレベルで皆様の要望に応えていくつもりです。

MRI(Magnetic Resonance Imaging)の注意点

- I 金属を近づけるとその金属が装置に吸いつけられます。
- II 金属のある場所を撮像すると画像が歪んでしまいます。
- III ペースメーカー・携帯・時計・補聴器などの機械類を近づけると壊れて動かなくなります。
- IV キャッシュカード・ポイントカードなどは使用不能になりデータが壊れるので、せっかく貯めたポイントが無くなります。
- V 装置の特徴として撮像中色々な音がします。ドンドン・ビービーとか。

その時電磁波が出ています。その電磁波が金属に当たると金属が熱を持つようになり、火傷を起こす危険が生じます。

脳ドック等検査の前に化粧(アイシャドー・日焼け止めクリーム)等のチェックも受けていただきますが、これは金属成分を含んだものと失明等の危険性がありますので確認をさせていただきます。

● 敷地内全面禁煙について ●

8病棟看護師長 永末洋子

当院は平成24年から敷地内禁煙に取り組んでいましたが、精神科病棟だけは喫煙室がありました。平成27年4月に、下田病院長から院内全面禁煙に向けて取り組むことを病院の方針として出されました。そこで、精神運営会議において、精神科看護師長を中心に、多職種で禁煙ワーキンググループを立ち上げ、喫煙室の全面廃止に向けて、事前調査(他施設での取り組み)を行い、禁煙開始日を10月1日に決定し、院内周知を行いました。対象患者さんや家族への説明文書を作成し、7月10日に、病棟医より入院患者さんへ禁煙についての説明を行いました。その後、喫煙する患者さんと受け持ち看護師とで、禁煙までの計画を一緒に考え、個別の計画を立て実施していきました。

そして当日を迎えましたが、特に、患者さんには大きな混乱はありませんでした。禁煙となって約3か月経過しましたが、患者さんから「退院後もこのまま禁煙をしたい」「本数を減らしたい」などの言葉も聞かれています。

敷地内禁煙実施後、とっとり喫煙問題研究会代表の

安部内科医院の安部先生から声をかけていただき、精神科病院で敷地内禁煙に成功した愛知県の刈谷病院を視察に行ってきました。刈谷病院は、禁煙をニコチン依存症ととらえ、その治療を行う。禁煙を強制するのではなく自分で禁煙する必要性に気付いて禁煙するというように、患者さんだけでなく職員も一緒に、そして病院全体で取り組んでいました。

当院でも、患者さんだけではなく、職員の禁煙のきっかけとなるように、職員への禁煙の講演会などを計画して、今後も病院全体で禁煙に取り組んでいきたいと思えます。



● ロボットスーツHALのデモンストレーションについて ●

理学療法士 澤田誠

安部首相がOECD閣僚理事会にて「ロボットによる新たな産業革命を起こす」と表明してから一年が経ち、メディアでも連日のように様々な分野でのロボット応用を報道しています。リハビリテーション(リハ)の分野でもロボットの応用が始まりつつあります。当院リハ科でもロボットリハの導入を検討しています。

今年度の活動としては、先進的にロボットリハを実施している国立病院機構徳島病院の視察、徳島ロボットリハビリテーション研究会への参加など準備を進めています。

また、11月25日には「ロボットスーツHAL®(ハル)」のデモンストレーションを行いました。HAL®は歩行能力を高めるロボットです。今までは研究機器

として使われてきた機器ですが、治療成績が認められ、この11月より医療機器として認められました。会場には医師、リハスタッフだけでなく看護師や事務職など50名以上の方が集まり、食い入るようにデモンストレーションを見学していました。

HAL®をはじめとした医療でのロボット応用は、今後さらに浸透していくと予測されます。当院リハ科でも患者様、介護者の方に貢献できるよう積極的に新しい機器や技術の導入を進めていきたいと考えております。



○ 10周年記念式典について ○

管理課長 松 浦 敏 夫

鳥取医療センターは、平成17年7月1日に旧国立療養所西鳥取病院(鳥取市三津)と旧国立療養所鳥取病院(鳥取市岩倉)が旧西鳥取病院の地で統合され新病院「独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター」としてスタートしました。

平成27年7月に統合新病院として10周年を迎え、7月4日に統合10周年記念式典を行いました。

記念式典は、鳥取大学、鳥取県、鳥取市、地元医療関係者、国立病院機構関係者等々多数の参列を頂き盛大に行われました。式典で行われた記念講演は、前国立病院機構理事長・国立医療福祉大学総長 矢崎義雄先生より「エビデンスに基づく医療・病院管理－国立病院機構の取り組み－」として国立病院・療養所が厚生

労働省国立病院部から独立行政法人国立病院機構に変わったときの初代理事長として取り組まれた経営改善などを事例をまじえてご講演頂きました。また、国立精神・神経医療研究センター病院長 水澤英洋先生には「精神・神経疾患の克服をめざして」として精神・神経学会の歴史からIPSや移植医療等最先端医療まで精神・神経疾患の克服に向けたお話を頂きました。

式典後の祝賀会では多くの関係者より当院に対する熱い期待が語られ、職員一同当院の地域における役割を認識し、地域の皆様のご期待に応えられるよう努力をいたすところです。今後とも皆様のご支援ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。



国立医療福祉大学総長 矢崎義雄先生



国立精神・神経医療研究センター病院長 水澤英洋先生

○ 9病棟クリスマス会特別メニュー ○



栄養士 東 浩 一



12月15日火曜日に9病棟クリスマス会が実施されました。

その際病棟のとても強力な(強引な?)依頼をいただき、クリスマス

会の目玉となるべきものが作れないかと依頼がありました。しかし栄養管理室は患者さんの食事の調理を主業務としており、行事用の料理をあまり作っていませんでしたということもあり最初は断るべきかどうか悩んでおりました。

しかし調理師からの「患者さんを喜ばせることができるのなら、喜んで協力します!!」との心強い言葉をもらい、大きな不安とかすかな希望を抱えつつ依頼を受け、フルーツタワーと赤鼻トナカイのケーキを作成することになりました。が、なにぶんやったことのないことなので、試作や必要な材料の購入・勤務調整など、自部署・他部署も含め多くの協力をいただきながら準備していきました。最初は不安だらけでした

が、試作をつくり「もっと喜んでもらえそうなものはできないだろうか」と試行錯誤を重ねるうちに栄養管理室内に「絶対成功させてやろう!」という連帯感が生まれてきて不安以上に期待感がこみ上げてくる感覚がありました。本番当日に出来上がったものは写真で載せています。当日の雰囲気を完全に表現できていないかもしれませんが、本当にどこに出しても恥ずかしくないそれはそれは素晴らしいものができたと自負しています。患者さんの笑顔と歓声を聞いた時、すべての苦勞が報われたように思います。病院にとっても栄養管理室にとっても素晴らしいイベントであったと感じています。今回は9病棟で依頼を受け、引き受けた形ではありますが、今後他の病棟からの依頼や栄養管理室自ら提案してこのようなイベントが実施できれば更なる病院の活性化につながると信じてやみません。

本当にありがとうございました。 栄養管理室一同



○ 玄関前ツリー ○

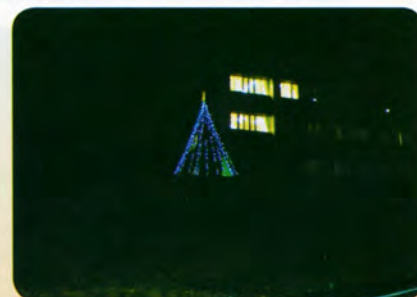
イルミネーション作成チーム

この度、三津の丘(鳥取医療センターの玄関前)にイルミネーションが点灯しました。

患者さん、ご家族、地域の皆様、職員に見てもらい、楽しんで欲しいと思い作成しました。

職員の手作りで、今後さらに進化する余地(笑)があります。お楽しみ頂き、今後にも期待してください。

イルミネーション作成チーム



下の道路から見える輝き

○ 職場紹介 ～6病棟～ ○

6病棟看護師長 山崎みどり

6病棟は、精神科慢性期の52床の病棟です。入院患者さんは、8割が統合失調症、その他、双極性感情障害、てんかん性精神病、解離性障害などです。年齢層は20歳代から70歳代です。病棟の特徴としては、長期入院患者さんが多い為、自立や社会復帰に向けて退院の支援をしています。看護師は、作業療法士や精神保健福祉士、心理療法士など多職種と連携を取りながら作業療法や心理教育、退院支援会議の実施、施設の見学、社会資源の説明や公共施設の見学なども行なっています。

また、病棟行事として鳥取砂丘の砂の美術館へでかけたり、七夕祭りを行ないました。患者さんと一緒に「早く病気が治りますように」「家族のみんなが健康で過ごせますように」と短冊をお願いごとを書き笹に飾りました。

今年の病棟目標として、患者さんのいいところ探し(ストレングス)を行ない、持て

る力を支え少しでも日常生活行動の拡大ができるよう取り組んでいます。

精神看護学実習も数校を受け入れ、学生や職員のお互いが学びの場として、未来の看護師を育てています。6病棟をよろしく願います。



○ 職場紹介 ～7病棟～ ○

7病棟看護師長 澤田典子

7病棟は精神科の回復期病棟で、身体合併症、認知症の患者さんも受け入れている病棟で病床数は50床です。

看護師は個々の患者さんの強みを活かし、本来持っている能力が発揮できるよう、積極的な関わりをモットーとして看護を行っています。また、入院時から退院をイメージした関わりを医師、精神保健福祉士、作

業療法士、理学療法士、言語聴覚士、栄養士などの多職種と協働して行い、患者さんや家族の思いを汲み取りながら、退院に向けた支援を進めています。長期入院の患者さんが地域の生活に戻れるよ



うな支援を行い、今年、40年近く入院生活を送っていた患者さんや入退院を繰り返している患者さんが2名退院できました。

認知症患者さんは、神経内科医、精神科医が協力し、看護は患者さんと共に行動し寄り添う関わりと安全で安心できる環境作りに配慮しています。

作業療法の場面では季節に合わせた行事を作業療法士が企画し、患者さん、作業療法士、看護師が共に出来た作品や気分転換活動歩などを通して、喜びを分かちあっています。



● 職場紹介 ～8病棟～ ●

8病棟看護師長 永末洋子

8病棟は精神科の急性期病棟です。24時間入院の受け入れを行い、急性期の患者さんの入院から退院までの看護と、長期入院患者さんの看護を行っています。

主な疾患として、統合失調症・双極性感情障害・うつ病・アルコール依存症・適応障害などの患者さんが

入院しています。急性期の患者さんに対しては、一日でも早く症状が落ち着くように安全で安心できる環境を提供し、確実な薬物療法を行い、症状の観察と薬の効果

や副作用の観察、睡眠状態

の観察などを行っています。また、アルコール依存症の患者さんに対しては、医師・看護師・心理療法士が関わり、治療プログラムを用いて専門的な治療を提供しています。また、作業療法参加での様子や患者さん同士や看護師との日々のコミュニケーションの中での患者さんの表情や言動のちょっとした変化にも気付けるように、細やかな観察力とコミュニケーション技術を日々勉強して看護を実践しています。



● 職場紹介 ～通園療育室～ ●

保育士 細田久美子

通園療育室(通園みんなの広場)は、主に在宅で生活しておられる重症心身障がい者(児)の通園施設です。

現在、21名の方が利用されています。

利用者さんが、今ある機能を活かして日々の生活に変化や楽しさなどを感じてもらえるよう、生活支援、療育活動を中心に小児科医、看護師、保育士、看護助手、リハビリスタッフなど、他職種チームで協力し支援を行っています。

また、年間3回行事を計画しており、今年は6月に「夏まつり」、10月には「梨狩り遠足」を行いました。夏まつりでは、おばけ屋敷や射的などを楽しみ、遠足では梨狩りや試食、ゲームなどを楽しみました。利用者さん、ご家族の笑顔がたくさん見られ、皆で楽しい時間を過ごすことができ、スタッフ一同嬉しく思います。

これからも、日々の関わりを大切に、たくさんの方の笑顔を引き出せるような支援や療育ができるよう頑張っていきたいと思っています。



● 病棟音楽会(1・9病棟) ●

1 病棟看護師長 國 森 佳 子



神経筋難病病棟では、病状の進行に伴い身体が動かなくなり、自力で呼吸もできなくなると人工呼吸器を装着して長期の入院生活を送りベッド上生活を余儀なくされます。私たちは、療養介護サービス事業の余暇活動としてレクリエーション

を毎月計画しています。これは、病室以外の場所で楽しみのひと時を過ごすこと、行事を通して患者家族や職員との交流の場となることを目的に行っています。

この度、11月9日に広島より沖田孝司(ヴィオラ奏者)沖田千春(ピアノ奏者)ご夫妻が、ボランティアでの演奏を快諾下さり、遠路鳥取まで来てくださいました。会場の病棟フロアーには、リクライニング車いすや人工呼吸器を装着しベットで参加した患者さん16

名とご家族の参加もありました。楽しいトークと四季の歌を演歌や童謡、ポップスを交えて生演奏で聴くことができました。会場からは、「洋楽や懐かしい曲などもあり感動した。」「季節に合った歌が聴けて良かった」などの感想が聞かれ盛大の内に終わりました。心に響く音楽は、みんなのこころの中で活力となることでしょう。ありがとうございました。



● 私の趣味(バドミントン) ●

ボイラー技士 能 勢 進

私が、バドミントンを始めたきっかけは、十数年前、地元にて体育館が建設され、消防団員仲間「体育館でスポーツを！」と、チームを作ったことです。

7名程度のメンバーが集まりチーム名を「火の用心」に決め、東部地区社会人大会に出場することを目標として、週1回の練習をすることからバドミントンへ、のめり込むこととなりました。

バドミントンのおもしろさは、少し練習をすれば、ある程度ラリー続き、自然とシャトルを追って行けるようになることです。

無心でシャトルを追い続けることに、少しずつ楽しさを見つけていき、日々のストレス、運動不足の解消となっています。

初心者の集まりだったので、初めての試合はさんざんな結果でしたが、こつこつ練習を重ね、メンバーも増やすことができ、今では東部地区社会人リーグ4部と8部の2チームで出場できるまでになりました。

ここまで続けてこられたのは、よい仲間と環境に恵まれたこと、と感謝しています。

技術的に難しいことも出てきますが、継続は力というより、慣れというか？・・・。

今では「〇〇の横好き」が一番と思い、週2回の練習をこなしています。

仲間とシャトルを打ち合い、スマッシュの感触と打球音を感じてコートを動き回るのも楽しいものです。(ダイエットにはなっていません！)

近頃では、視力の低下と関節痛に悩まされていますが(年齢です)、試合後の慰労会を楽しみに、練習に励み、これからも、より長く続けていきたいと思っています。

興味のある方は声をかけて下さい。一緒にバドミントンを楽しみましょう。



外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成28年1月1日現在

		月	火	水	木	金	
内科	循環器	松本		松本	松本	松本	
	呼吸器	山本	山本	山本			
神経内科	1	高橋	齋藤 (てんかん)	井上	金藤	土居充	
	2	下田	下田	金藤 (嚔下外来)	土居充	房安	
	3	小西		齋藤	小西 (井上)		
	4	房安		北川	三島		
	5						
	専門外来 (予約制)	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚔下障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	
もの忘れ外来		高橋 (午後)		下田 (午前)		小西 (午前)	
小児科		中野	小松	赤星	中野	赤星	
	専門外来 (予約制)		発達外来 赤星	発達外来 中野			
精神科	初診	診察室1	坂本	休診	助川	休診	休診
		完全予約制ですので事前の予約が必要です。					
	再診	診察室1		助川	土井清	高田	坂本
		診察室2		坂本		助川	土井清
		診察室3		岩田		幡	柏木
		診察室5		池成			林
		診察室6					
診察室8							
専門外来 (予約制)				睡眠外来 坂本・高田			
外科		古澤	古澤	古澤	古澤	古澤	
整形外科 (隔週：8:30~13:00)			市立病院 医師				
リハビリ入院相談 (13:00~15:00)	地域医療連携室	齋藤	齋藤	齋藤	齋藤	齋藤	

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分~午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分~午後3時00分(睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://tottori-iryo.jp/>
- ◆地域医療連携室 TEL 0857-59-1111 (内線275) FAX 0857-59-0713